

## 生きがい健康づくり～セカンドライフワーク デザインとまちづくりの探求的思考

私はみなさまのおかげで、本年度創業29年になります総合経営コンサルタント事務所「しあわせ総合研究所」という屋号の事務所経営のかたわら、現在NPO法人大阪府民カレッジ、NPO法人大阪区民カレッジの監事としてお手伝いさせて頂いております。上小牧秀彦(かみこまきひでひこ)と申します。どうぞよろしくお願いいたします。ご縁がございまして、両貴法人とも創立からありがたく、お手伝いさせて頂いております。いまや、両貴法人は、地域の社会的資源を活用しながら、地域の生涯学習の学び舎として、NPO法人大阪府民カレッジは、大阪府下の市町村に、15校、NPO法人大阪区民カレッジは、大阪市内の行政区に9校が開講し、受講生は、主にシニア世代の方々であります、そして、セカンドライフワークを楽しみながら、なかでも、ひとと人の新たな出会い、放課後活動も活気に溢れた活動などは、まさに、『生きがい、健康づくり』のエンジョイライフワークであります。また、受講生のみなさんは、NPO法人大阪府民カレッジ、NPO法人大阪区民カレッジでの学びカリキュラムを修了されたあかつきには、みなさんの活動を大阪府は、シルバーアドバイザーという知事認証資格が交付され、地域社会的還元として、新たな『まちづくり』『まちの活力』により勢いになっており、このような、知事認証資格交付は、全国でもまれであります。また、これらは、新たな『社会への参加』に加えて、『将来への参加』という『先見性』を持った学習形態が重要となる。ボランティアを通じた学習は、先見性を育てる上で重要な意味を持つのである。そして、更なる、『生きがい』『健康づくり』につながると考える。ここで、生涯学習の4つの原則をご紹介します。1996年に刊行された『学習：秘められた宝』という21世紀の教育を指針づけるユネスコの報告書で提案されたその4つの柱は、「知ることを学ぶ」「なすことを学ぶ」「ともに生きることを学ぶ」「人間として生きることを学ぶ」である。また、生涯学習審議会の答申では、ボランティア活動をめぐって、生涯学習が持つ意義を次の3点から指摘している。「ボランティア活動そのものが自己開発につながること」「学習成果の実践につながること」「生涯学習活動そのものの支援を行うボランティアが得られこと」である。このことは、ボランティア活動と生涯学習の関係に①ボランティア活動のための教育・学習活動②ボランティア活動の中での学習③多様な活動の場の一つとしての学習ボランティアの3つの側面があることを示している。



参考、引用文献・『学習：秘められた宝—ユネスコ「21世紀教育国際委員会」報告書』

・生涯学習審議会答申

略歴：元東成区市民協働ステーション(ふれ愛パンジー)運営委員長、元東成区区政会議委員、元大阪市男女共同参画審議会委員、現、しあわせ総合研究所代表、大阪市空家対策協議会委員、大阪市小学校学びのサポーター、大阪府地域活動アドバイザー、学芸員、京都国立博物館ナビゲーター、日本福祉のまちづくり学会会員、NPO法人大阪府民カレッジ監事、NPO法人大阪区民カレッジ監事、大阪市SA会員